

B型肝炎ワクチン

(2016.10.01)

1. B型肝炎ウイルスに感染すると、重症の急性肝炎で命に関わる場合があります。

乳幼児では、急性の症状がないまま持続感染になりやすく、将来慢性の肝炎から肝硬変、肝臓がんに進展することがあります。近年、成人期に感染しても持続感染になりやすいタイプのウイルスが増えています。

2. 日本では約100万人の持続感染者がおり、小児では年間約300人が感染しています。

主に血液を介して感染しますが、つば(噛まれた時)・汗(運動、スポーツ時)・体液(性行为時)での感染も見られます。

3. 母親がB型肝炎ウイルスに感染している場合、母子感染予防として健康保険で出生直後から接種しますが、それ以外は任意接種でした。

4. 2016年10月より0歳児への定期接種(2016年4月以降の出生が対象)が始まりました。

4週間隔で2回、さらに1回目から139日以上あけて1回の、合計3回接種します。

5. 副反応は、接種部の痛み・かゆみ・腫れ・硬結・発赤、5%以下で発熱が見られることがあります。いずれも数日で回復します。

6. 生後2ヵ月からヒブワクチンなどと同時接種がおすすめです。

(家族に感染者が居る時は出生直後から接種できます。)

※1歳になるまでに3回接種するためには、遅くとも生後7ヵ月になった頃には1回目を接種する必要があります。(遅れると3回目が自費接種になります。)

※年長児にも接種をお勧めします。1回¥5,000、3回接種です。



ハピネス こども クリニック

お問い合わせは…

087-848-9178

